

# 戦争前提の訓練に抗議

大分・日出生台 演習場前で住民ら

陸上自衛隊と米海兵隊の大規模合同演習「レゾリュート・ド・ラ・コン23」に抗議する集会が15日、大分県由布市の日出生台演習場ゲート前で開かれました。「日出生台での米軍演習に反対する大分県各界連絡会」の呼びかけに市民約60人が結集し、「県民の頭上でオスプレイ飛ばすな」「戦争につながる訓練はするな」などと声を上げ、訓練中止を訴えました。



日出生台での日米共同訓練に抗議する集会参加者=15日、大分県由布市・演習場ゲート前

日出生台(由布市など)、十文字原(別府市)両演習場では陸自3000人、米軍1100人がオスプレイ機、地対艦ミサイル、高機動ロケット砲システム「ハイマークス」などを投入して離島を奪取する訓練を実施します。実弾射撃も行われ、国が大型弾薬庫新設を狙う大分分屯地(大分市)から沖縄・ホワイトビーチへ陸自

コンテナを海上輸送する訓練も組み込まれています。集会で日高幸男事務局長は大軍拡を推し進める岸田政権の「日米一体となつた戦争国家づくりを厳しく批判します。実弾射撃を行わぬよう」「住民を脅かす訓練にノーリスクを突き付けよう」「一人ひとりの行動を束ね平和を築いていく」などと訴えま